

全国安全週間準備期間(6月1日～6月30日)

令和7年度「全国安全週間」スローガン
「多彩な仲間と 築く安全 未来の職場」

全国安全週間は、昭和3年に初めて実施されて以来、「人命尊重」という崇高な基本理念の下、労働災害を防止するために産業界での自主的な活動の推進と、職場での安全に対する意識を高め、安全を維持する活動の定着を目的とした厚生労働省主催の運動です。



毎年、6月1日から6月30日までを準備期間として、安全への関係者の意思の統一及び安全意識の高揚、安全パトロールによる職場の総点検の実施、安全旗の掲揚、標語の掲示、緊急時の措置に係る必要な訓練の実施等、様々な取り組みを各事業場で行います。

STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン**(6月1日～9月30日)**

6月になり梅雨の時期に入ると湿度が高くなるので要注意です。風が弱く湿度が高いと、汗をかいても蒸発しにくくなり、体温調整が難しく、それほど気温が高なくても、日々の気温差が激しいときや、湿度が高い日などは熱中症にかかる危険度が増します。

そこで熱中症予防対策として、次のとおりです。

- ① ウォーキング・ジョギング(帰宅時に一駅分歩くなど)
- ② サイクリング(目安30分、週3回)
- ③ 適度な運動(筋ストレッチなど適度に汗をかくもの)
- ④ 入浴(シャワーだけでなく、湯船に入るもの)

日常生活でできる暑熱緩和するための動きや生活



- ⑤ 朝食をとる(こまめに水分・塩分補給)

- ⑥ 日陰を選んで歩いてこまめに休憩を取る

- ⑦ 室内を涼しく快適な睡眠環境をつくる

- ⑧ 寝る前に水分補給(コップ一杯)

- ⑨ 枕元に飲料を置いておく

**「夏の食中毒予防」**

これから高温多湿な日が続き、食中毒が発生しやすい気象条件となっていますので、手洗いの励行、食品の取扱い(食中毒『つけない』・『増やさない』・『やっつける』)に十分注意し、食中毒の発生を防止しましょう。



プラント技術1Gの徳久道夫氏が契約期間満了により5/31をもって退職されました。長きにわたりご尽力いただきお疲れ様でした。

飛行機もクリーンな乗り物に！持続可能な**ジェット燃料「SAF」とは？**

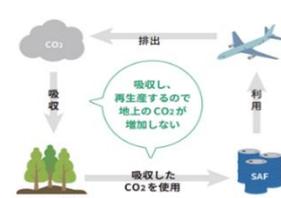
カーボンニュートラルな社会を目指す上では、さまざまな領域でCO2削減に取り組む必要があります。飛行機を使用する際に排出されるCO2の削減も、そうした課題のひとつです。そこで期待されているのが、ジェット機の燃料をクリーンな燃料である「SAF」に置き換えていくことです。SAFとはどのようなものか、原料や製造方法をご紹介します。

「SAF」とは、「持続可能な航空燃料(Sustainable aviation

Fuel)」のことです。廃食用油、微細藻類、木くず、サトウキビ、古紙などを主な原料として製造され、従来使用されている化石燃料(石油)からつくった



ジェット燃料とくらべ、CO2削減効果があると考えられています。たとえば、SAFの一種であり微細藻類や木くずからつくられる「バイオジェット燃料」は、燃焼させるとCO2を排出しますが、その元となるバイオマスはCO2を吸収して再生産されるため、全体として見れば大気中のCO2が増加しない燃料とみなすことができます。SAFを航空機に搭載して使用するためには、世界最大規模の国際規格標準化



団体が策定・発行する規格に適合していることが求められます。また、国際規格により、化石燃料から作ったジェット燃料に混合して使用することが求められ、最大50%まで混合すること

が可能となっています。

SAFの原料・製造技術の今とこれから

現在、SAFの製造方法として確立しているのは、廃食用油などを原料にする「HEFA」と呼ばれる技術です。しかし、廃食用油は世界的な需要の増加によって供給量が不足し、価格が高騰しています。

SAFの原料のうち、理論的な総量が多いと見られているのは、米国・ブラジル産のバイオエタノールなどです。今後は、これらの原料からSAFを製造する「Alcohol to Jet」技術が確立することが見込まれていますが、バイオエタノールの原料となるのはサトウキビやトウモロコシなどで、このような可食原料(食べることのできる原料)は、欧州が利用を制限しています。そのため、マメ科の植物「ポンガミア」(油分を含む毒性の種子)など、非可食原料の開拓といった原料の多角化も必要となっています。

今後、SAFの導入を拡大していくためには、安定的な原料確保に向けた取り組みが必要不可欠です。さまざまな技術開発が進むことで「SAF」の利用がさらに促進され、航空のクリーン化へとつながることが期待されています。